# 海外研修報告シリーズ〈その1〉

## 「海外研修のススメ」

南大阪療育園 訓練部 作業療法科主任　渡辺　薫

1988年4月から約半年間にわたり、アメリカ、カナダ、イギリスの小児施設での研修を経験しました。「海外事情を知りたい」という読者の声に是非答えたいと、パシフィックニュース編集担当の方からのお話があった時に、さて自分のような者の経験談が、どれほど読者の方々の興味に触れることができるだろうかと悩みました。それでも、民間の肢体不自由児施設に働く、自分のようなごく普通の作業療法士が、経験し、感じ、考えたことに、うなずかれたり、やってみようと思われたりする方もおそらく少なくはないでしょう。

お話をお引受けするにあたり、次のような自分なりの理由もありました。ひとつは、「アメリカでは便利な自助具や材料が豊富なのに、日本ではどうして取り扱わないのですか。」、「輸入物の値段は、もっと安くならないのですか。」、「高い商品をいきなり買うわけにはいかないから、モニターシステムを積極的に行ってください。」、「アメリカの車椅子は、とってもおしゃれで機能的にできているのに…」など、帰国後、意気揚々と捲くし立てる強気の発言に、粘り強くお付き合いくださっている、パシフィックサプライの社員の方々へ敬意を表し、これからも私たちの要望に答えていただくことを改めてお願いしたいからです。

海外研修では、どこの施設にいっても、必ず、「あなたならどうしますか」と意見やアイデアを求められました。こういった経験を通し、現状の不平不満や苦情を一方的に並べるだけの消極的で依存的な問題への対処の仕方に気づかされ、「私は、こう考える」「私なら、こうしたい」といった自分の意見をしっかり持ち、アクティブプランナーとして積極的に問題解決に臨むことの大切さを教わりました。これは、案外難しいことだと思います。というのも、「私は、こう考える」と言い放つには、しっかりとした状況判断に基づく理由が求められます。「私は、こうしたい」を実現させるには、的確な問題分析と緻密な計画が必要だからです。

あれもほしい、これもほしいと海外での経験をお話していくうちに、業者の方々にも積極的に相談をもちかけ、具体的で有効な企画提案を行い、交渉し、連携しなければ先へ進まないし、またそういった現場からの働きかけがまだまだ少ないといった日本の現状を知ることができました。

そしてもうひとつの理由は、「百聞は一見にしかず」。一人でも多くの方々が、行ってみたいとまず思ってくださる機会となれば、というささやかな気持ちです。

海外研修を通して得るものは、知識や技術ももちろんありますが、「自分の国を離れてはじめて自分の国を知る」、「日常から離れて自分の力を知る」ということもあります。多様でしかも複雑に、人種、言語、文化、社会が混在する中で、同じように多様で複雑な価値感を認め、ひとりひとりのニーズに応じて実践に取り組む、たくましい同士の姿に、作業療法の原点とプロ意識を教えられました。こういった経験は、やはり日本国内だけでは、得難いものではないでしょうか。また、言葉や文化、生活習慣を越えても同じ仕事に向かう者として共感し合えることの多かったことにも感激しました。

さてシリーズの初回でもありますので、海外研修の計画と実践を簡単に紹介し、次回からの研修報告につなぎたいと思います。

長期に研修を希望するなら、先立つものはお金です。個人的には、中央競馬社会福祉財団の海外研修助成金制度に応募し、援助をいただきました。これは、経験年数3年以上の民

●第1回全米神経発達学的治療法学会に参加

●こんな車椅子がほしい

●Richmond Cerebral Palsy CenterのOTスタッフ

●市販のバギーに乗せるだけの改良シート

間社会福祉施設等に勤務する職員を対象にしており、毎年1回試験が行われ、合格すれば、約170万円ほどの助成があります。その他、清水基金などもあります。いずれにしても資料をご希望の方は、各都道府県の社会福祉関係窓口にお問い合わせください。

お金のやりくりができたとしても、次に、海外での研修受け入れ先を見つけなければいけません。それには、海外に行かれたことのある方に、紹介していただくのがてっとり早いのですが、できれば、新しい人脈や施設を開拓なさるつもりで個人交渉されることもお奨めします。交渉にあたっては、専門職としての経歴、研修目的、希望内容、期間を明示すれば、もし条件に合わない場合、必ず他の人を紹介してくださいます。また、同時に宿泊場所もお願いすれば、安くて条件の良いものを教えてもらえます。

日頃、読むチャンスのある外国文献やジャーナルで、興味ある研究や報告に出会ったら著者の名前、住所も掲載されていますから、控えておきます。私もそうやって交渉し、RHODA PRIEST ERHARDT,MS,OTRのワークショップ「発達性視機能障害の評価と治療」に参加しました。また、アメリカ作業療法士協会など専門職団体に問い合わすこともできます。

欧米間では、学術研究や福祉機器などの情報交換がさかんに行われていますが、残念ながら、日本とは言葉の壁もあり、まだまだ不十分な印象です。しかし、1990年オーストラリアでの世界作業療法学会には、多くの日本の先輩方の報告が予定されています。新たな時代に向かって、いま国際交流の扉が大きく開かれようとしています。

●学校でよく見かけた傾斜調節式プロンボード

なおこのシリーズに関する要望やお問い合わせは、直接筆者宛ご連絡ください。

（〒546 大阪市東住吉区山坂5－11－21 TEL（06）699－8731）